

社会福祉法人A J U自立の家 2025年度（第36期） 事業報告



Social welfare corporation.
A.J.U Center for Independent Living.

目次

2025年度（令和7年度）を振り返って	1	(9) わだちコンピュータハウス	10
(1) 福祉ホーム・サマリアハウス	2	(10) ピア名古屋	11
(2) デイセンター・サマリアハウス	3	(11) 小牧ワイナリー（ななつぼし葡萄酒工房・ピア小牧）	12
(3) 自立生活体験室	4	(12) AJUリカバリーセンター・フェロー	13
(4) 障害者ヘルパーステーション・マイライフ	5	(13) マイプラン・ケアマネジメントセンター	14
(5) 障害者ヘルパーステーション・マイライフ西	6	(14) 社会啓発・社会貢献事業室	15
(6) 自立生活情報センター・サポートJ（講師派遣事業）	7	2025年度（令和7年度）決算概要	16
(7) 昭和区障害者基幹相談支援センター	8	2025年度決算・法人全体	17
(8) 相談支援事業所サマリアハウス	9	2025年度決算・各事業ごとの予算	19

2025年度（令和7年度）を振り返って

令和7年度AJU自立の家事業を振り返り、大きな出来事は辻前常務理事の体調不良により、令和7年度の途中から山田が急遽復帰するに至りました。また、最近の課題は数年続く大きな赤字の解消にとりくむことでした。

その第一歩として加算の格上げ申請に取り組みました。結果的には処遇改善加算や特定事業所加算のランクを最上級に上げ申請し認められ、処遇改善加算により職員の給与額を先ず上げ、職員のモチベーションを高めることからとりくみました。本体事業は24年度実績と比して停滞状況で、人件費比率が上がり、根本的な改善には至っていないのが現状です。収入の総額は増したがそれは加算の金額が増えただけというものです。

数的にみると法人全体で処遇改善加算が2024年は7,523万円から、25年度は21,148万円と3倍近く増した。特定加算については24年度4,180万円から25年度は6,755万円となり、この分は法人会計への繰り入れができ、赤字を半減できることになった。

処遇改善加算については職員に配分し、特定加算の増加半年分の増加2,500万円が法人として使える分、多少の余裕が出てきたが、その多くを職員の処遇改善に充て、26年度は黒字への目途を立てることが見通せるようになりました。

AJU自立の家として、我々が最も大切にしなければいけないことは、自立を目指す当事者を支える事です。法人設立35年を終え、理念を守りながら、組織をどのように残すのか、データや数字を元に比較改善が求められています。自立し、地域で暮らし始めた仲間たちが、高齢になっても地域で暮らし続けるという大きな使命を、法人全体で如何に安定した組織運営を継続させるのか、世代交代も含め計画に落とし込んでまいります。

社会福祉法人AJU自立の家
常務理事 山田 昭義

(1) 福祉ホーム・サマリアハウス

1. 実績収支

単位：千円

事業活動収入	事業活動支出	収支差額	令和6年度 事業活動収入	令和6年度 事業活動支出	令和6年度 収支差額
25,536	28,904	-3,368	26,005	32,694	-6,688

2. 活動実績

	令和6年度 実績	令和7年度 実績	目標数
入居実績	8.8名	11.5名	12名

3. 年度目標に対する結果

令和7年度は福祉ホーム入居者の「生活力向上のサポート」と「障害当事者・スタッフ共成長できるよう取り組みます」と2つの大きな目標としました。
<生活力向上のサポート>

- ・基本の振り返り及び担当者会議を12回、その他金銭管理支援を月に1回1名以上行い、その他随時相談等サポートを行いました。
- ・よくする会勉強会（5名）への参加や年末のイベント（8名）への参加、外部の自立生活センターへの研修会へ1名のホーム入居者が参加し、外部との繋がりや先輩当事者と接する機会を多くとりました。
- ・実習生、ボランティアへのアプローチに関しても、お宅訪問や講話などの対応を行い90名以上の方へ対応しました。
- ・福祉ホームイベント担当が企画し、いちご狩への参加（9名）や外部へのイベント参加（5名）、わいわいサマリアへの参加（6名）など、様々なイベント参加することや、自身で企画を立てる場面を多く創出しました。
- ・地域生活移行者の方で、退院後の生活基盤を整えるため、年末年始の受け入れを1名行いました。

<障害当事者・スタッフ共成長できるよう取り組みます>

- ・特別支援学校への講話（5名）を行うことや、体験室事業と連携しながら相談支援事業所や地域生活拠点事業を行っている事業者、行政に向けてのアドバイス事業で2名の方に講話者を依頼し、事前のミーティングや講話内容の作成等を共に行いました。
特別支援学校での講話、アドバイス事業での講話とも参加者から好評をいただきました。
- ・「知的障害者のある人の自立について考える」研修などスタッフの支援の質・幅を広げることができるようスキルアップ研修を行いました。
- ・入居者のつどいを毎月開催し、「ヘルパーの利用について」、「住宅改修について」等退去後にも必要な情報の共有等行いました。
また、福祉ホーム役割の変更を行いました。

4. 特記事項

- ・福祉ホーム入居者平均年齢が30歳となっており、イベントへの参加率が高くなっています。
ホーム内各役割担当者も自身の責任と認識し、活動を行っている様子が伺える。
- ・来年度に向けて退去者が増える予想があるため、入居者の受け入れを進めていく必要がある。

(2) デイセンターサマリアハウス

1. 実績収支

単位：千円

令和7年度 事業活動収入	令和7年度 事業活動支出	令和7年度 収支差額	令和6年度 事業活動収入	令和6年度 事業活動支出	令和6年度 収支差額
73,001	65,489	7,511	66,258	64,591	1,667

2. 活動実績

	令和6年度 実績	令和7年度 実績	前年比
年間利用 述べ人数	3,770人	3,900人	103%
利用 総契約者数	32人	34人	106%
平均利用者数 /1日	12.3人	12.7人	103%
稼働率 /定員20人	61%	63%	103%

3. 年度目標に対する結果

1. 個々のニーズに応じた支援と多様な活動の展開

- ・利用者状況：総契約者数は34名（女性メンバー2名の新規契約を含む）となり目標を達成しました。一方、平均利用人数は12.7名とわずかに目標（13名）に届きませんでした。これは既存利用者の逝去や長期欠席が要因です。今後は、スタッフ・利用者双方の健康管理意識を高める学習会を開催し、重度化や医療的ケアのニーズに即した体制を強化します。
- ・多様な企画の実施：意思表示が困難なメンバーも主体的に参加できるよう企画を拡充した結果、年間目標120件を大幅に上回る246件を実施しました。外出、買い物、レクリエーションなどを通じ、豊かな生活の場の提供に努めました。
- ・支援会議の充実：関係機関との支援ミーティング、モニタリング同席を27件実施し、個々の「困りごと」に耳を傾け、課題の整理と共有をしました。

2. 支援者および障害当事者の人材発掘・育成

次世代を担う支援者の育成と、当事者が主役となる場づくりに注力しました。

- ・実習生の受け入れと交流：13校から延べ91名の実習生を受け入れました。デイセンターや福祉ホームのメンバー自らが「障害理解の講話」や「施設案内」の講師を務めることで、学生の深い学びにつなげるとともに、当事者自身の自己肯定感の醸成やスキルアップにもつなげました。
- ・担い手への繋がり：実習をきっかけに、イベントボランティア15名、登録ヘルパーやアルバイト各1名など、実際の支援の担い手へと繋がる成果が得られました。

3. 地域共生社会の実現に向けた啓発活動

地域社会との「相互理解」を深めるため、双方向の交流機会を創出しました。

- ・地域交流イベントの開催：地域交流サロン「わいわいサマリア」を、後援会サタデークラブと合同で年4回開催しました。ワークショップ、ボッチャ、各種ゲーム、車いす体験、サマリア案内、ミニバザー、飲食の提供などを通じ、ボランティアや近隣住民と直接対話する場を設けました。
- ・地域への参画：地域の団体や学校行事へ積極的に参加することで、誰もが共に暮らせる地域づくりに向けた啓発活動を推進しました。

4. 特記事項

以前から週に2回は修繕ボランティアさんがサマリアの環境整備を対応してくださる他、7年度より新たに月1回、アロマハンドマッサージのボランティアさんの施術体験実施や他事業所からコストコ小売り出張販売の開催などを毎月実施しました。

又、広報、啓発活動もSNS発信グループをつくり、ボランティアさんの協力をえて、人と社会とつながるための発信をサマリア全体ですすめてきました。

(3) 自立生活体験室

1. 実績収支

単位：千円

事業活動収入	事業活動支出	収支差額	令和6年度 事業活動収入	令和6年度 事業活動支出	令和6年度 収支差額
11,167	13,177	-2,009	11,167	12,987	-1,819

2. 活動実績

	R6年度 実績	R7年度 実績	前年比
実施件数	31件	19件	61%
延べ日数	156日	117日	75%
利用者数	31人	19人	61%
事業周知数 (訪問・説明会)	48件	28件	58%

3. 年度目標に対する結果

2025年度は<地域生活移行>、<事業周知>、<人材育成>の3つの目標を立て行動をしました。

<地域生活移行>

- ・「愛知県地域生活体験モデル事業」、「名古屋市身体障害者自立体験事業」、「短期入所事業」、「その他の事業」の4つの内容で行い、「愛知県地域生活体験モデル事業」0件、「名古屋市身体障害者自立体験事業」4件、「短期入所事業」2件、「その他の事業」を3件の計19件、延べ117日行い、3名を福祉ホーム入居へ繋げることができました。

<事業周知>

- ・参加者募集チラシの配布を250か所3,000枚配布し、問合せ49件、見学27件、利用相談61件、出前講座12件116名の対応を行いました。
今年度は出前講座依頼が多く評判も良く好調でした。

<人材育成>

- ・出前講座（12回）やアドバイス研修（1回）、特別支援学校での特別授業（2校、計3回）の開催にあたり、地域生活実践者に講師を依頼し、自らの体験や経験を語る機会を創出しました。また、随時、講師とスタッフ間で打ち合わせを行い、依頼者のニーズに沿った資料（スライド、動画等）の作成を行う等、参加者の理解促進と意欲喚起に資するものとなるよう、伝え方を工夫しました。
- ・また、県内の自立生活センターにて講習を行い、発達障害や精神障害の方交流を図り、今後の事業運営の契機となりました。
- ・名古屋市内の身体障害者グループホームに福祉ホーム入居者と見学し、共に見聞を広げる機会となりました。
- ・同じく自立生活体験室を行っている三重県の事業所と相互研修を行い、来所受け入れを行いました。精神障害者を主に行っている事業所ということもあり、今後、精神障害者受け入れ時に相談できる事業所としても関係性を構築・深化することができました。
- ・今年度も伊藤葉子先生ゼミ生の受け入れを行い、18名の方にボランティア新規登録をしていただきました。
年度終盤ではゼミに参加させていただき、スーパーバイズをする機会をいただきました。
- ・四季自立体験プログラムでは、4日間で17名（延べ29名）のサポーターより参加申し込みがあり、高校生や当事者スタッフのサポートをしてもらう機会を創出しました。

4. 特記事項

- ・愛知県地域生活体験モデル事業の受託に関して継続して県と交渉を重ねています。

(4) ヘルパーステーション・マイライフ

1. 実績収支

単位：千円

事業活動収入	事業活動支出	収支差額	前年度 事業活動収入	前年度 事業活動支出
543,050	504,778	38,271	500,905	478,639

3. 年度目標に対する結果

(1) 施設や親元から地域生活を目指す障害者を支援する

体験室利用者10名、福祉ホーム入居者4名へ介助者を派遣する

⇒体験室利用者が多く、福祉ホーム入居者と合わせ17名へ派遣

(2) 長期に渡り支援してきた重度及び高齢な障害者との会話の機会を増やし、地域での生活をできるよう支援する。

今までの支援に捉われず、他部署と協力しながら地域生活が継続できる支援を提供・提案する

⇒事案ごとにケアマネージャー中心に関係者MTを実施。

昨年度に入院して施設に一旦入居された男性1名が4月に退去して自宅生活を再開。

他男性1名が入院を経て1月末より施設を利用の間に、栄養指導と自宅の環境整備をして、4月退去を目指されています。

(3) コミュニケーションの場を増やし、障害者の生活を支える為の人材を確保する。

授業アピール、イベント3回/年、求人媒体や就職セミナーへの参加、障害者スタッフの育成と発掘

⇒授業アピール48件、イベント3回/年、求人媒体や就職セミナーへの参加、3名の障害当事者それぞれの役割を担っていただいた。

(4) 役割に合わせた人材育成。

①役職・役割に応じた仕事の責任を明確化する。

⇒人事異動もあり実施できず。来年度も検討を継続します。

②情報共有と意見交換を素早く行えるアプリの整理と導入。

⇒スラックの導入から1年が経過し、使用方法等の意見交換と見直しを行いました。

③ICTソフトウェアの導入による業務効率化と特化した人材選出

⇒ソフトウェアを検討、業者との打合せ、試用実施もしましたが、マイライフの現状に適した対応ではなく、本格導入には至らず。

業務効率化のため次年度も引き続き探していきます。

(5) 人材の確保やサービスの質を高め、継続的に安定した体制を整えるため、特定事業所加算（Ⅰ）の算定を目指す。

①確実に算定要件を満たすことが出来るかシミュレーションを行う。

②令和7年10月からの算定を目指し、必要なICTツールを整える。

⇒特定事業所加算Ⅰは受理され、10月より算定開始。ヘルパー数も多く記録の確認など業務は重なるが、引き続きチェック体制づくりをすすめます。

2. 活動実績

	目標数	実績
授業アピール	40件	48件
重訪講座 受講者数	—	106名
派遣時間	前年度 158,547 h	156,801 h
ホーム入居者 への派遣	4名	8名
体験室 への派遣	10名	9名

(5) ヘルパーステーション・マイライフ西

1. 実績収支

単位：千円

事業活動収入	事業活動支出	収支差額	前年度 事業活動収入	前年度 事業活動支出
274,331	262,539	11,791	220,840	208,278

3. 年度目標に対する結果

①個々にあった支援体制作り

- ・利用者10名へ月1回以上の定期面談を実施しました。ヘルパー派遣や生活の困り事を聞き取り、情報共有アプリや月例MTを活用の上、チームで支援方針を策定し解決に向け対応を進めました。
- ・入退院を繰り返す利用者へ向け、入院中から退院後に渡りヘルパー派遣を継続し続けました。身体状況の変化に対応するため、医療的ケアが可能なスタッフ16名を養成。本人・ご家族と共に行政交渉を続けながら、退院後の本人が望む地域での自分らしい生活実現のため、担当者を中心に多職種と連携し、生活基盤の再構築を支援しました。

②安定したヘルパー派遣体制の整備

- ・新規登録ヘルパーを年間46名獲得しました。(前年度比:+17名) 登録ヘルパー紹介(17名)、大学等での広報活動(14名)がきっかけ上位となり、成果に繋がりました。
- ・大学等での広報活動 年間20回、イベント年間9回実施。参加者間で打ち合わせと振り返りを綿密に行い、意識と質の向上に努めました。

③目標派遣時間数の数値化と達成

- ・月間派遣時間数 6,505時間 (目標:7,200時間/前年度比:+442時間)
目標値には届かなかったものの、前年度実績を442時間上回る前進を遂げました。目標未達成の主な理由は、利用者2名のサマリア入居が見送りになったことです。
- ・サマリア入居者含む6名と新規利用契約を結び、ヘルパー派遣を実施。次年度目標達成に向けた基盤を構築しました。

④自立生活センター・生活塾との協力関係において、障害者支援への取り組み実施検討

- ・生活塾の月例MTに職員が出席。新事務所を活用した地域交流実現や「たまり場」活性化に向け、当事者主体で進められるよう、役割分担の整理や後方支援を行いました。(イベント年間11回開催)
- ・地域活動支援センター開所に向けた具体的な検討を実施。人員配置基準や報酬単価の整合性、ヘルパー利用における当事者の利便性を総合的に判断し、現時点での開所は見送ることとしました。

⑤役割にあわせた人材育成

- ・TAL面談および新規採用職員向け面談を年間50回以上実施。MDSを活用し、役割に対する責任感の醸成・業務状況の可視化・モチベーション向上を図りました。
- ・職員スキルアップのため希望する外部研修を延べ21回受講。知識定着と部署内共有を目的に、西MTでアウトプット・意見交換の場を設けました。

4. 特記事項

- ・職員2名が介護福祉士試験を受験し合格しました。

2. 活動実績

	当年度実績	目標数	前年比
派遣時間数 (年間)	78,065時間	86,400時間	107.2%
職員嘱託 稼働率	17.9%	20.4%	101.7%
登録ヘルパー 稼働率	85.3%	—	102.5%
平均報酬額/時	3,533円	—	116.4%
処遇加算額/時	762.1円	—	268.3%
派遣時間数 (1日)	213.9時間	236.7時間	107.4%

(6) 自立生活情報センターサポート J (講師派遣)

1. 実績収支

単位：千円

事業活動収入	事業活動支出	収支差額	前年度 事業活動収入	前年度 事業活動支出
11,432	11,382	+49	11,170	11,064

3. 年度目標に対する結果

- ・ 2025年度は講師派遣収益が目標の15%増109万円となりました。
原因は大口収入の社会福祉士実習が毎年不定期依頼の東京福祉大学、NHK学園の計3件の収入増が寄与した。同実習は学校・学生の意向ありきなので毎年の不安定さは否めないが、営業と当該教員などとの信頼構築を含めて新規開拓にも努める。
- ・ 大学などの「当事者講話」は1%増の85件を目標としました。
結果はベテラン当事者職員との同行講話・営業も強化することでほぼ達成しました。
ただこれらの微増計画は派遣できる講師の人材育成が達成できていないのが主因です。
- ・ 小・中学校の対福祉実践教室では新人当事者1名の「一人立ち」が完了。
当事者不足で前年まで0だった北名古屋市・港区・南区社協の同教室では総計8件を実施した。
- ・ 勉強会(人材育成)も昨年までは不定期だったがほぼ毎日1名の勉強会を実施できた。
これは最近増えたサマリアなどの若手当事者と向き合うことで仲間意識や「啓発意欲」を高められたことが大きい。

4. 特記事項

- ・ 愛知大学・市立大学・中京大学・名城大学・愛知学院大学の障害学生支援課やボランティアサークルなどに関係を深めた。
愛知大学では障害学生2名の相談に乗り、1名を同じ難病のサマリア当事者とつなげた。
開設済の西区の「障害者サロン」、社会福祉士実習生のサマリアでのアルバイトなど収益にはすぐには直結はしないが、外部交流や実習での相乗効果が表れた。

2. 活動実績

	前年度実績	目標数	前年比
講師派遣 収益	1,090千円	700千円	115%
講師派遣 件数	80件	85件	101%
人件費	10,449千円	10,369千円	101%
その他 諸経費	934千円	1,118千円	84%

(7) 昭和区障害者基幹相談支援センター

1. 実績収支

単位：千円

事業活動収入	事業活動支出	収支差額	前年度 事業活動収入	前年度 事業活動支出
48,572	50,575	-2,002	47,638	48,529

2. 活動実績

	当年実績	前年度実績	前年比
計画相談収入	2,972千円	3,469千円	85%
総契約者数	62名	63名	98%

3. 年度目標に対する結果

1. 地域資源への意識を上げ、つながるために個々職員の自覚と意識の向上をはかる

- ・新規事業所に向けた挨拶回りや協議会への参加依頼はその都度行ってきましたが、協議会へ既に参加している事業所への訪問に関しては協議会総会の出欠確認やガイドブック配布などと併せて行ってきましたが、次年度は事業所への挨拶回りにさらに力を入れていきたいと考えております。
- ・協議会開催の案内、研修会・イベントなどの開催案内、事業所空き情報などメーリングリストを活用して情報の発信を行いました。
また、今年度はメーリングリスト登録者の確認を行いました。

2. 私たちの存在を伝えるためにSNSでの情報発信を継続して行える仕組みをつくる。

- ・SNS担当チームを編成し、Instagramでの情報発信を行いました。担当者の休職に伴い発信の頻度は下がったものの、イベントの案内や事業所の情報などの発信を随時行いました。フォロワー数も1000人を超えました。
- ・八事の森春まつりや桜山商店街夏まつりなどの地域イベントへの参加の他、地域で開催されたイベントに足を運び地域や事業所との関係づくり及び基幹相談支援センターの周知に努めました。

3. 全職員がレベルアップをするために自発性・積極性を身につける。

- ・2025年度は女性相談員の休職や異動に伴い、新規契約者数を計画通りに進められなかった事や男性相談員では対応困難なケースを他事業所に依頼するなどの調整を行った事で前年度より契約者数及び計画相談収入減となりました。
- ・個々の職員が自身で研修の選定し受講してきましたが、全員が年間6回の研修を受講する事は出来ませんでした。
- ・来所や電話での初期対応については、経験の浅い職員が積極的にいき、必要に応じてフォローを行ってきました。
利用者との面談においても熟練者が同席をし、相談員のフォローが出来るよう対応しました。

4. 特記事項

- ・AJUの仲間が手術により入院した際、病院より手術中家族等の付き添いが求められましたが、家族が高齢かつ遠方である事から対応が難しいという事で基幹センターの相談員が交代で手術開始前から手術終了後まで（朝9:00～深夜2時頃）対応しました。
- ・化学物質過敏症の利用者へ訪問するに当たり、合成洗剤を使用しない服装を用意し、自然由来の洗剤で洗濯をする、整髪料、化粧品を使用しないなどの対応を行いました。

(8) 相談支援事業所サマリアハウス

1. 実績収支

単位：千円

事業活動収入	事業活動支出	収支差額	前年度 事業活動収入	前年度 事業活動支出
20,409	18,687	1,721	19,957	18,467

2. 活動実績

	当年度実績	目標数	達成率
新規契約者数	13件	14件	92.9%
総契約者数	161件 (平均)	180件	89.4%

3. 年度目標に対する結果

- ①一人ひとりの目標に合わせた、当事者主体の計画づくりをします。
 - ・計画更新・モニタリング以外での聞き取り：105件実施。
利用者一人ひとりに合わせた対応を行い、加算を取得することで、収入増につなげることができました。
 - ・緊急連絡先の聞き取り：15件実施。
 - ・小牧ワイナリーの仲間が自立に向けて体験室の利用やグループホームの体験や入居の調整を行う際は、関係者からの評価と本人やご家族との意向のすり合わせを行い当事者が取り残されないよう意識して取り組みました。
- ②関係機関との連携を強化し、情報共有を円滑に行うことで、主体的な支援体制を構築し、利用者のニーズに応じた柔軟な対応を実現します。
 - ・児童の虐待・ハラスメント・ネグレクト疑いの事案が5件ありました。
行政やサポートチームとの連携を図りました。
 - ・対応困難な状況が生じた場合は、担当者会議開催や小まめな面談や訪問、関係機関との情報共有、医療機関との連携、行政との交渉等、機動的な対応をしました。
- ③自己の専門性を深めるために、学びの機会を積極的に活用します。
 - ・相談部会は概ね参加できました。勉強会や情報共有の場では発言をし、得られた情報については所内で共有をしました。
 - ・研修参加：4件。高次脳機能障害・精神障害の特性と支援法・強度行動障害の研修へ参加しました。
研修参加が少ないことは課題ですが、加算取得ができる研修を修了することができました。
 - ・新規問い合わせ24件、解約20件。相談支援専門員1名減の影響により解約者数が増加しました。

※契約者数推移

	総契約 者数		総契約 者数
4月	168	10月	159
5月	167	11月	157
6月	166	12月	156
7月	166	1月	155
8月	167	2月	155
9月	162	3月	154
平均 161			

4. 特記事項

- ・1月時点で相談支援専門員1名減(常勤換算0.3減)となりました。
今年度の総契約者数目標数180件は、相談支援専門員2.3名での目標としていました。

(9) わだちコンピュータハウス

1. 実績収支

単位：千円

事業活動収入	事業活動支出	収支差額	前年度 事業活動収入	前年度 事業活動支出
181,051	186,466	- 5,415	168,838	139,860

3. 年度目標に対する結果

○生産活動において、売上と経費のバランスを考慮して適切な利益を得られるようにします

- ・3年に一度の「名古屋市障害者実態調査」に合わせて、令和8年度のアジアパラ陸上に備えたUD業務等を受託することで、生産活動で1億円超の売上を達成できました。
- ・新入所員を教育するためのマネージャー制度は年度内を通じて有効に機能し、新人教育を推進することができた。スタッフ・マネージャーのさらなる関わりが課題です。
- ・マニュアル化については、MDSを大幅改定して所内の役割分掌を再定義して、新年度に臨むことができました。
- ・後援会と馬主協会のご協力により、輪転機を助成金で購入し、経費削減できました。

○10年後を見据えた、将来につながる施設運営を目指します

- ・『10年後のわだちのあり方検討会』では、月一回の定例会を通じて、行動指針の策定を行い、「わだち版事業仕分け」を進めることができました。
- ・新入所員について、2名の入所希望者がおり、入所実習も行いましたが、残念ながら利用には結びつきませんでした。

10月からの就労選択支援の開始により、50歳未満の利用希望者が就労支援事業所にたどり着きにくなったのも要因かと思われます。

○所員一人一人が制度を活用して、自分自身で生活を組み立てられるようにします

- ・5月の送別会、7月の昭和区の福祉まつり、10月の生涯学習センターまつり、11月の歓送迎会、1月のAJU新年会、2月の女子会など、所内または地域の催しで交流を深めることができました。
- ・上記の催しにも関わらず、所員の出勤率が0.4%マイナスになっているのが課題です。

○次を担う世代の人たちが活躍できる取り組みを行います

- ・MIRAIプロジェクトでは、講師派遣業務や動画編集業務など、将来につながる業務を受注できました。
- ・加えて、MIRAIプロジェクトはインスタグラム等により、わだちの情報を内外に発信できました。

4. 特記事項

○9月：サービス管理責任者（基礎研修）修了 1名。10月：所長交代。

2. 活動実績

	令和6年度 実績	令和7年度 実績	前年度比
障害福祉 サービス収入	77,687千円	77,979千円	100.4%
障害福祉 サービス支出	76,402千円	89,337千円	116.9%
生産活動収入	91,151千円	103,072千円	113.1%
生産活動支出	63,458千円	97,129千円	153.1%
平均利用者数	23.9人	23.7人	99.1%
利用稼働率	66.3%	65.9%	99.3%

(10) ピア名古屋

1. 実績収支

単位：千円

事業活動収入	事業活動支出	収支差額	前年度 事業活動収入	前年度 事業活動支出
85,394	84,555	836	84,819	75,871

3. 年度目標に対する結果

①仲間の「働く」意欲への仕組みづくり

- ・仲間の役割づくりにおいて、毎月1～2件(名)のペースで新たな役割、活動内容の変更・改善提案をすることができました
- ・年3回予定していた研修会開催は、福祉用具関連の研修及び勉強会9回、デモ会4回、展示会2回に参加し、仲間の「働く」意識づけの機会となりました
- ・新規顧客開拓や既存ユーザーが求めるニーズ変化へ、延べ35件に対応しました
- ・仲間の役割と成果の「見える化」への取り組みとして、仲間ミーティング47回（目標44回）、3者（仲間とスタッフ）による請求書のチェックを年12回実施

②仲間が活動できる環境づくり

個別相談・会議等	定期面談（傾聴）	OJT・他事業連携・改善	スタッフ研修参加
72件	243回	8件	19件

- ・スタッフの定例ミーティングは年42回予定に対して44回開催。年2回の1on1ミーティング（TAL）は、前期は実施したものの後期は実施できず。来期は個別業務を週次単位で確認し、コミュニケーション活性化につなげます

③安定した事業運営への取り組み

スタッフ配置率	福祉用具の来所相談・修理	緊急対応	仲間年間工賃総支払額
内勤：99.8% 外勤：99.1%	229回	32件	6,540,366円

※内勤率が安定したことで、相談や修理、仲間の急な送迎やお客様の外出先での対応が可能となりました

※外勤の稼働率不足は年度途中でスタッフ1名退職によるもの

- ・生活介護の楽しみとして、四季に併せたイベントを年10回開催し、プログラムに豊かさを加えることができました

4. 特記事項

- ・車いすメンテナンスを社会福祉協議会（市内外）、名古屋大学、名古屋市交通局、県立図書館など計8件実施しました
- ・地域貢献として、夏場は熱中症避難場所として事務所スペースを開放。また子ども会のイベント開催時には備品と場所の提供を年2回行いました

2. 活動実績

	当年度実績	目標数 ※1	前年比
障害福祉サービス収入	39,642千円	39,410千円	100.9%
障害福祉サービス支出	38,840千円	38,671千円	113.9%
生産活動収入	45,653千円	49,008千円	100.3%
生産活動支出	41,714千円	44,757千円	109.4%
平均利用者数	7.5人	7.5人	97.4%
利用率 ※2	85.3%	—	—

※1 1次補正後の数値

※2 仲間全員の利用予定日に対し実際に利用した割合値

(11) 小牧ワイナリー（ななつぼし葡萄酒工房・ピア小牧）

1. 実績収支

単位：千円

事業活動収入	事業活動支出	収支差額	前年度 事業活動収入	前年度 事業活動支出
105,676	120,896	-15,219	107,911	114,732

3. 年度目標に対する結果

- 健全な葡萄栽培に取り組み、生産の安定や品質の向上を目指す（収量目標：小牧10.0t、多治見2.5t）
 - 今季の収穫量は年度比の約0.76倍となり、約9.5tでした。（収量実績：小牧8.0t、多治見1.5t）
 - 収穫期を遅らせられる樹木は遅らせ、香り・着色・味わい・酸度を意識。しかし、高温障害や収穫期の降雨による減収。及び、品質向上の為、収量制限を行った為、減収。農業ボランティアの募集も継続した結果、22名（外部支援者）が集まりました。
 - 雨除け対策：笠掛作業の枚数（35,000枚／年）。病害対策：防除散布（10回以上／生育期間）。
- 美味しいワイン造りに取り組み、生産の安定や品質の向上を目指す
 - 外部研修や視察からの栽培方法・醸造方法の改良や各社の試飲会にも参加（8回／年）。葡萄品種の知識や傾向、暑い地域の葡萄栽培の留意点、品種特性（色調・香り・味わい等）の官能を学ぶ。
 - 糖度・酸度以外の分析が出来る分析機器の購入した為、測定値の傾向と数値目標、及び、官能から醸造方法の再試行、品質の安定性を目指す取り組みを実施。（生産本数：14,000本）（販売本数：10,650本）
- 特長あるワインの商品開発に取り組む
 - 日本ワインコンクールに「2商品」を出品。結果は受賞が出来ず。しかし、サクラアワードに出品した「2商品」が受賞。現時点での専門家からの評価を得る事が狙いとしていた観点から考えると嬉しい評価でした。
 - 小牧市ふるさと納税サイトの掲載、地元企業や自治体、近隣大学、等々のイベントにも積極的に参加して、地域の皆様に小牧のワインを楽しんで頂きました。（催事目標：11日／年）（団体見学：67件／年）（外部イベント販売：10件／年）
- 沢山のお客様に来て頂けるカフェを目指す
 - カフェの経営状況を鑑みて、カフェ営業は休止する事を決定。その代替として、試飲会、等のイベント開催時の臨時営業に注力、集客を募る試みを始めました。
- SNSの掲載内容を充実させる
 - 日々、掲載する事が大切という意識変革に取り組み、ほぼ毎日のように、Instagramを更新。フォロワー数も1,800名を超える事が出来ました。
- 仲間と共に働き、作業の充実を図る
 - 暑くなる季節が早まり、長引く傾向が高まって来た為、畑作業組の体調管理や目配り、朝の体調チェック、食事接種管理を大切にしました。また、所員（女性：3名、男性：2名）が、サマリアハウスの体験室を利用。掃除、洗濯、買い物、お出かけ、外食、等の体験を通して、家族から離れて暮らす練習を行いました。
- 所員33名体制の維持
 - 所員1名が入所（男性1名：小牧市在住）。所員1名が退所（女性1名：名古屋市在住）となった為、現員、B型「28名」、生活介護「5名」の稼働を維持。所員1名（女性）が、家庭の事情からGHへ入居を開始。初めて、家族から離れて暮らす事、共同生活を送る事に戸惑いもありながらも、新たな生活を開始。

2. 活動実績

	今年度実績	前年度実績	前年比
障害福祉 サービス収入	65,940千円	69,378千円	95.0%
障害福祉 サービス支出	71,477千円	68,387千円	101.1%
生産活動 収入	39,736千円	38,533千円	103.1%
生産活動 支出	49,418千円	46,345千円	98.2%
【B型】平均 利用者数	17.7 人	18.1 人	97.8%
【B型】利用 稼働率	51.80%	55.50%	93.3%
【生活介護】 平均利用者数	2.8 人	2.9 人	96.6%
【生活介護】 利用稼働率	45.70%	47.80%	95.6%

(12) AJUリカバリーセンター・フェロー

1. 実績収支

単位：千円

事業活動収入	事業活動支出	収支差額	前年度 事業活動収入	前年度 事業活動支出
72,502	92,773	-20,271	53,886	90,204

3. 年度目標に対する結果

- ・令和7年度は、アルコールの人が利用する宿泊型自立訓練と生活訓練の利用者を増やすのが一番の目標でした。その点からいうとよくできた年度となりました。
- ・TYM（就労継続支援B型）も利用する人数は増えてきましたが、身体知的の稼働率がまだまだ低いです。
- ・Tiny（就労移行支援）は大変苦戦を強いられました。身体知的の利用者は先ずはB型を利用する方が殆どという状況です。制度の旨を無視すれば、アルコールの通所利用者をひたすら増やし続けられればこちらもそれなりに埋まってくると思いますが、そこまでは集められませんでした。
- ・まだまだ赤字ですが赤字幅は減らせたと思います。
- ・一昨年から広報先（主に病院）の見直しを行ってきました。その成果として愛知県精神医療センターや犬山病院へのメッセージが7年度から始められました。また西山クリニックにも出入りができるようになり、これで愛知県下のアルコールの指定を受けた病院クリニックに対してほぼ全てに広報が出来るようになったことがアルコールの方の利用増に繋がりました。（愛知県では布袋病院と上林記念病院がまだできていない。）（三県・岐阜県・長野県の主要病院はメッセージをしています。）
- ・後半になり、人格障害の方に手を焼いてしまいましたが、この方が出した損失は500万円を超えるものになると想定しています。大きな反省が伴いました。
- ・身体知的の方は、擁護学校の先生や社協の方の訪問が増えてきていて今後に繋がると思います。
- ・畑の方も万全ではありませんが、1名の職員が業務の間を見つけて畑作業をしています。ほぼ毎日畑に入れる利用者があるので指示を出せば、ある程度任せられるようになりました。
- ・授産の販売先も安定していますが、春先の作業がまだ足りません。

2. 活動実績

	当年度実績	目標数	前年比
福祉サービス収入（千円）	66,593	84,393	133%
就労支援事業収入（円）	3,088	1,431	155%
宿泊型平均利用者数/年	12.5人	12人	129%
就労継続B型平均利用者数/年	9.2人	11人	224%
就労移行支援平均利用者数/年	2人	4人	8%

4. 特記事項

- ・7年度中に決めたことで、初のバザーを実施すること。秋には感謝の集いを行う。この二つのイベントを固定していくことにしました。
- ・7年度中に、主要な病院幹部に対して、プレゼンを7カ所行うことを目標にしました。
- ・マック便りをホームページ上ではなく、年に一回作成し支援者に送ることにします。

(13) マイプラン・ケアマネジメントセンター

1. 実績収支

単位：千円

事業活動収入	事業活動支出	収支差額	前年度 事業活動収入	前年度 事業活動支出
13,007	19,974	-6,966	11,675	16,495

3. 年度目標に対する結果

- ・2025年度は、年度当初に77人を目標とし、年間平均で77人となりました。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要介護	65	66	66	70	67	68	75	73	71	73	70	72
要支援	16	17	15	15	16	14	14	14	13	13	14	14
総合事業	5	8	8	9	7	8	8	9	10	10	11	11

- ・年間で入退院者が多く加算対象（要介護）となる入院だけで37人ありました。
逝去5人、施設入所2人であったことから、在宅へ戻られた方が大半を締めています。
2024年度より「状態変化があっても可能な限り在宅生活が継続できるプランを提供できる」ように
普段から想いの聞き取りや自己研鑽に努めてきたことが実を結んだと思っています。
- ・自己研鑽も含めて研修の受講を積極的に行いました。毎年、似た内容の研修が多く、
専門書を通じての自己研鑽の機会が増えています。相談援助に関する研修は、メンタルヘルスに
関連付けられるものが増えており、個々の支援者への負荷が大きくなっていると感じました。
事業所内で相談しあえる環境を維持することで、スタッフ間の負荷を軽減できています。

4. 特記事項

- ・いきいき支援センター主催のケアマネ研修にて、介護保険利用者の利用できる障害福祉サービス制度について講師を務めました。
- ・在宅医療・介護連携の推進に伴う多職種連携で、昭和区のケアマネジャー委員会で2022年度より2年間副委員長、2025年度は委員長を務めました。医師との連携に関する課題提起、ACP啓発のための研修やリーフレット作成、災害時の連携等の活動を行いました。
- ・無料で利用できるAIを活用し、主に経過記録などの業務の効率化への取り組みを進めています。

2. 活動実績

	当年度実績	目標数	達成率	前年比
要介護	836件	828件	101%	109%
	11,504千円	10,441千円	110%	110%
要支援	175件	228件	77%	78%
	663千円	895千円	74%	74%
総合事業 対象者	104件	60件	173%	193%
	423千円	235千円	180%	194%
認定調査	33件	12件	275%	157%
	199千円	72千円	275%	165%
高齢者いき いき相談室	56件	15件	373%	64%
	126千円	30千円	420%	60%

(14) 社会啓発・社会貢献事業室

1. 実績収支

単位：千円

事業活動収入	事業活動支出	収支差額	前年度 事業活動収入	前年度 事業活動支出
3,648	3,648	0	3,468	3,468

2. 活動実績

	当年度実績	目標数	前年比
車いす貸出事業 (個人+団体)	526	—	101%
『たまり場』の開催	12回	12回	150%
制度学習会 (よくする会・愛重連 ・DPI・JIL・ADF)	8回	—	—
交流会・調理体験	8回	—	—

3. 年度目標に対する結果

1. 障害者のエンパワメントを促すために様々なイベントを企画・実施します

- ・福祉ホーム入居者・デイセンター利用者を中心とした障害当事者のみが集う『たまり場』を毎月1回開催しました。各自が経験談を発信、傾聴することで自己信頼の回復を図り、エンパワメントを促すことができました。また年間を通して企画担当者男女1名ずつが内容を検討・準備し、受け身ではなく主体的に『たまり場』に関わってくれました。
- ・車いすセンターで活動している男性（ホーム入居者）主催による昼食会を定期的に開催しました。また季節ごとのイベントも企画し、地域で暮らす障害当事者や障害当事者スタッフ、ヘルパー等と一緒に調理・食事を通して交流を図りました。
- ・県内で活動されている障害者団体が開催する自立生活プログラム、ピア・カウンセリング講座の案内と参加呼びかけを行った結果、6月に男性1名が名古屋市内にある自立生活センター主催のピア・カウンセリング講座入門編に参加しました。

2. 車いす貸出事業を通し制度の狭間にある人の社会参加を促すため事業の維持と発信に取組みます

- ・新規貸出は526件あり、昨年度（520件）とほぼ同じ件数となりました。30%が65歳以上の方たちへの貸出となっています。
- ・AJUホームページのリニューアルに合わせて記載内容の改善は行えましたが、各支部への活動状況の発信、貸出対応を担ってもらうAJUスタッフに活動主旨を伝える機会を設けることができませんでした。人的、時間的余裕の無さが要因と考えています。

3. 人権意識を広めるために各団体の活動を通して啓発をします

- ・障害者団体事務局を担い、アジア・アジアパラ競技大会に関するシンポジウムの開催、大会演習への参加協力、名古屋市BF整備相談事業当事者参画の場への参加等を通じて、当事者の声を反映させることができました。
- ・全国自立生活センター協議会の全国セミナー、別府ILサミット、JIL中部ブロック研修に参加し、学習と多くの仲間との交流を持つことができました。

4. 特記事項

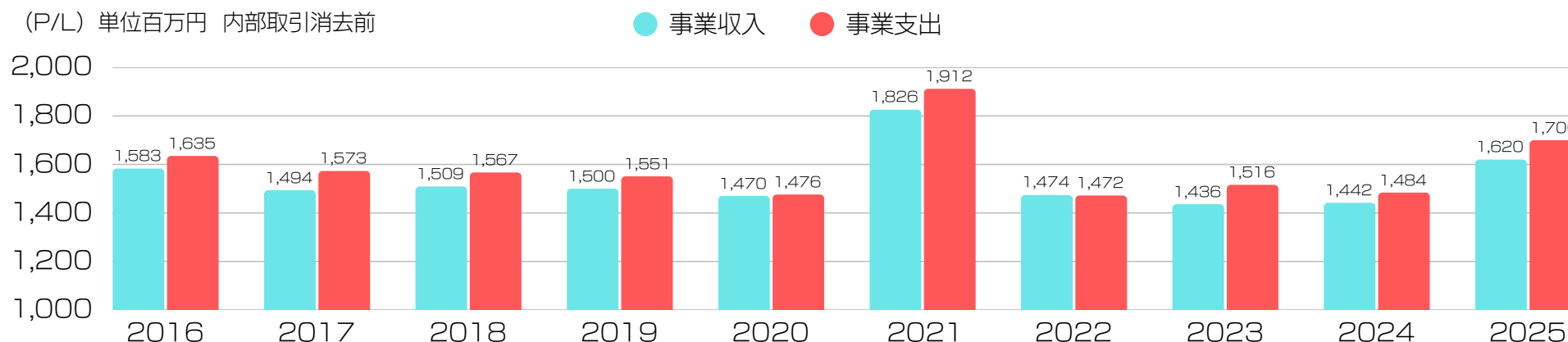
- ・10月13日～15日に開催されたバリアフリー障害当事者リーダー養成研修in愛知（DPI主催）の実行委員会事務局を担い、無事研修を終えることができました。
- ・名古屋城木造天守にエレベーター設置を実現する実行委員会の事務居として、市長との懇談、市民説明会への参加、名古屋市BF整備相談事業当事者参画の場（名古屋城に関する）へ参加し、一年を通じて名古屋城木造天守にEV設置を求める活動を行いました。

2025年度（令和7年度）決算概要

2025年度決算・法人全体

(C/F) 単位百万円 内部取引消去後	2024年度（実績）	2025年度（当初予算）	2025年度（実績）
事業活動収入	1,454 百万円	1,537 百万円	1,622 百万円
事業活動支出	1,495 百万円	1,573 百万円	1,651 百万円
収支差額	-41 百万円	-36 百万円	-29 百万円
収益率	-2.8 %	-2.3 %	-1.8 %

- ・ 2025年度（令和7年度）法人全体の決算事業活動収入は、当初予算より49百万円増え1,622百万円でした。
- ・ 2024年度（令和6年度）決算実績より、収入は168百万円の増収でした。一方で支出も156百万円増加し、最終的な収支差額は、-29百万円でした。処遇改善加算Ⅰの取得により収入のボリュームは増えてましたが、処遇改善のために支出するため支出のボリュームも増えた結果です。
- ・ 下記グラフは2016年度～2023年度までの事業活動計算書（損益計算書）です。



2025年度決算・福祉医療機構による2024年度全国社会福祉法人経営分析との比較データ

経営指標	2024年度 障害主体法人 全国平均	2024年度 障害主体赤字法人 全国平均	2025年度 AJU自立の家	全国平均との 比較	経営指標の説明
人件費率	64.40%	68.60%	78.93%	14.53%	サービス活動収益に対する人件費の占める割合を示す指標です。本指標の値が低いほど収益に対する費用の負担は軽くなります。
経費率	21.50%	24.10%	23.72%	2.22%	サービス活動収益に対する経費の占める割合を示す指標です。本指標の値が低いほど収益に対する費用の負担は軽くなります。
減価償却費率	3.90%	4.50%	3.40%	-0.50%	サービス活動収益に対する減価償却費の占める割合を示す指標です。本指標の値が低いほど収益に対する費用の負担は軽くなります。
サービス活動増減差額比率	3.80%	-3.70%	-5.70%	-9.50%	本業であるサービス活動収益から得られた増減差額を示す指標です。本指標の値が高いほど収益性が高い事業といえます。
経常増減差額比率	4.20%	-3.20%	-4.80%	-9.00%	本業であるサービス活動収益に受取利息等を加えた、法人に通常発生している収益から得られた増減差額を示す指標です。本指標の値が高いほど収益性が高い事業といえます。
従事者1人当たり活動収益 (千円)	6,988	6,399	5,795	-1,193	従事者1人当たり、どの程度のサービス活動収益を得ているかによって効率を判断する指標です。本指標の値が大きいほど従事者の収益獲得力が高いことから収益増加あるいは費用削減に寄与することになります。
労働生産性 (千円)	4,803	--	4,299	-504	従事者1人がどの程度の付加価値を生み出したかを示す指標です。本指標の値が高いほど、各々の従事者が効率よく価値を生み出し、円滑な運営が行われているといえます。
従事者1人当たり人件費 (千円)	4,497	4,387	4,574	77	従事者1人にかかる平均人件費から給与水準を示す指標です。本指標の値が小さいほど費用削減に寄与することになります。

従業者の数は、職員数＋マイライフ系の派遣時間を常勤職員の1月の労働時間で割って求めた人数で計算しています。（常勤換算法）法人全体で合計職員275人相当です。

2025年度決算・各事業ごとの収支

2025年度(令和7年度)決算補足資料(資金収支・内部取引消去前)

		社会福祉事業												公益事業					合計
(単位:千円)		本部	福祉ホーム	サマリアデイ	マイライフ	マイライフ西	講師派遣	基幹	相談サマリア	わだち	ピア名古屋	小牧	フェロー	養成事業	シルバー住宅	体験室	リフトカー	マイプラン	
2024年度	事業活動収入	17,093	26,356	66,258	501,301	221,213	11,169	47,561	19,957	191,708	84,819	109,067	66,220	2,255	2,268	11,011	58,651	11,939	1,448,846
	施設整備等収入	653	0	0	0	75	0	0	0	0	0	0	1,702	0	0	0	0	0	2,430
	その他収入	23,434	7,000	846	102	10,409	0	8,944	0	2,110	0	11,135	40,485	0	0	2,000	0	4,000	110,465
	収入合計	41,180	33,356	67,104	501,403	231,697	11,169	56,505	19,957	193,818	84,819	120,202	108,407	2,255	2,268	13,011	58,651	15,939	1,561,741
	事業活動支出	67,009	29,947	63,506	479,330	208,278	11,117	47,109	18,467	150,990	75,872	115,509	91,604	468	2,267	10,995	58,651	15,696	1,446,815
	施設整備等支出	1,274	0	0	165	16,066	0	0	0	0	0	1,602	6,849	0	0	0	0	0	25,956
	その他支出	71,367	223	562	25,934	2,742	112	3,335	112	23,270	1,268	493	665	0	0	112	0	112	130,307
	支出合計	139,650	30,170	64,068	505,429	227,086	11,229	50,444	18,579	174,260	77,140	117,604	99,118	468	2,267	11,107	58,651	15,808	1,603,078
予備費		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
24年度収支差額		-98,470	3,186	3,036	-4,026	4,611	-60	6,061	1,378	19,558	7,679	2,598	9,289	1,787	1	1,904	0	131	-41,337
2025年度	事業活動収入	14,980	25,774	72,784	599,871	274,331	11,432	49,006	20,409	183,713	85,394	107,811	80,985	4,051	2,751	11,150	68,857	13,013	1,626,312
	施設整備等収入	0	1,078	217	0	552	0	0	0	1,045	0	0	1,347	0	0	0	0	10	4,249
	その他収入	42,000	6,153	0	525	0	0	1,750	0	6,459	0	10,000	19,873	0	225	3,000	0	9,000	98,985
	収入合計	56,980	33,005	73,001	600,396	274,883	11,432	50,756	20,409	191,217	85,394	117,811	102,205	4,051	2,976	14,150	68,857	22,023	1,729,546
	事業活動支出	71,751	26,984	64,227	545,950	263,322	11,628	49,701	19,087	186,465	84,713	120,882	94,574	651	2,898	13,088	68,857	20,395	1,645,173
	施設整備等支出	0	1,288	287	0	627	0	0	0	1,045	0	197	7,060	0	0	0	0	0	10,504
	その他支出	46,555	288	539	37,236	12,069	111	504	128	669	1,269	446	604	2,000	0	111	0	134	102,663
	支出合計	118,306	28,560	65,053	583,186	276,018	11,739	50,205	19,215	188,179	85,982	121,525	102,238	2,651	2,898	13,199	68,857	20,529	1,758,340
予備費		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
25年度収支差額		-61,326	4,445	7,948	17,210	-1,135	-307	551	1,194	3,038	-588	-3,714	-33	1,400	78	951	0	1,494	-28,794
前年同月との差額		37,144	1,259	4,912	21,236	-5,746	-247	-5,510	-184	-16,520	-8,267	-6,312	-9,322	-387	77	-953	0	1,363	12,543
事業活動収入増減率		-12.4	-2.2	9.8	19.7	24.0	2.4	3.0	2.3	-4.2	0.7	-1.2	22.3	79.6	21.3	1.3	17.4	9.0	12.2
事業活動支出増減率		7.1	-9.9	1.1	13.9	26.4	4.6	5.5	3.4	23.5	11.7	4.7	3.2	39.1	27.8	19.0	17.4	29.9	13.7
2025収益比率		-79.1	-4.5	13.3	9.9	4.2	-1.7	-1.4	6.9	-1.5	0.8	-10.8	-14.4	522.3	-5.1	-14.8	0.0	-36.2	-1.1

- 各事業毎では、本部の支出が昨年度に比べ7.1%改善しました。資金不足の部署への繰入が減少したためです。またマイプランは人件費負担が重いので支出過剰です。
- 基幹、相談サマリア、ピア名古屋等は処遇改善加算の上昇により人件費支出が増えたことで、昨年に比べ支出が増えています。
- わだちコンピュータハウスは、大規模の業務を受注した影響で、就業支援事業における経費支出がかさみ支出が大幅に増えています。
- 小牧ワイナリーは、サクラワインアワードの受賞はしたものの、福祉サービス利用が減少したため収入は減少し、当初予算で本部から繰入をゼロで予定していましたが、最終的には1,000万円の繰入をしました。
- AJリリカバリーセンター・フェローは利用者獲得に努力した結果、昨年度に比べ22.3%の収益増となりました。また、当初予算で本部より2,750万円の繰入を予定していましたが、決算では1,800万円の繰入に減少し改善しました。
- マイライフは派遣時間数は減少したものの昨年度比19.7%の増収でした。加算の影響で収入が増えましたが、処遇改善のため支出も増加しました。マイライフ西は派遣時間も増えましたが、マイライフと同様に支出が増加しています。
- 事業の運営課題は一人あたり収益の低さです。個々人の問題では無く、前頁の経営指標の比較でお示ししたとおり、全国平均に比べて人件費の比率が一見高いように見られますが、収益性の低さが課題です。職員の効率的な仕事、各部署の事業報告にも記載されているように、サービス利用減少している部分をどう引き上げていくか。これが減少し続けていくことが、事業運営においては致命的になりかねないため、現場を中心に理念を大事にしつつ、利用率向上の工夫を新しい年度で深掘りして改善に繋げなければならないと考えます。